

第2回 日本免震構造協会賞 - 2001 -

第2回 日本免震構造協会賞は、右に記す諸氏及び作品を表彰することに決定した。

表彰制度の目的

免震構造の技術の進歩及び適正な普及発展に貢献した者並びに建築物を表彰することにより、免震技術の確実な発展と安全で良質な建築物等の整備に貢献して行くことが本協会の表彰制度の目的である。

表彰の対象

功労賞は、多年にわたり免震構造の適正な普及発展に功績が顕著な者に、技術賞は、免震建築物の設計、施工及びこれらに係る装置等について研究開発により優れた成果をあげた者にそれぞれ贈る。作品賞は、免震構造の特質を反映した、優れた建築物とする。

表 彰

2001年6月20日

(社)日本免震構造協会通常総会

(社)日本免震構造協会表彰委員会委員

武田壽一(委員長) 和田 章(副委員長)
石原直次 大越俊男 岡本 伸 辻井 剛

審査経過

今回、技術賞については、研究開発の創造性、技術性とその成果としての実施建物例を対象に審議を行い、作品賞については建築計画、意匠、構造計画、建物の使用性、安全性、大地震後の機能保持、社会へのインパクトなどに着目し審議を行った。

応募者の内訳は技術賞4件、作品賞13件で功労賞については一件の応募もなかった。

審査の経過を述べると、予め審査書類の内容を各委員が十分に吟味し、初回の委員会でも自由に意見交換を行いその結果技術賞候補2件、作品賞候補5件に絞り込んだ。

作品賞については3月から4月にかけて3回に分けて現地で説明を受け審査を行った。そして4月中旬委員会で討議を重ね満場一致で最終候補の決定に至った。

全般的に述べると、技術賞についてはそれぞれ研究を重ね創意工夫を凝らしているといえよう。

作品賞については建築計画、研究成果を踏えた構造設計、建物の使用性、機能維持についてかなりの注意がはられている。

選 考 結 果

第2回日本免震構造協会賞受賞は下記の5件である。

技術賞

- 1) 周期三秒前後の建物免震に関する一連の研究
株式会社 大林組 沼本要七、橋本康則、寺村彰、
奥田幸男、
株式会社 ブリヂストン 芳沢利和
- 2) 超高層免震
大成建設株式会社 川端一三、小室努、木村雄一、
高木政美
昭和電線電纜株式会社 村松佳孝

作品賞

- 1) 稲城市立病院
建築主：稲城市長 石川良一
設計者：株式会社 共同建築設計事務所 川島浩孝
株式会社 東京建築研究所 中澤俊幸
株式会社 設備工学研究所 矢萩栄一
- 2) 第一生命府中ビルディング
設計者：株式会社 日本設計 中川進、長堀嘉一
- 3) NSW山梨ITセンター
建築主：日本システムウエア株式会社 多田修人
設計者：株式会社 白江建築研究所 白江龍三
株式会社 ダイナミックデザイン 宮崎光生
(敬称略)

しかし、地震外力を感じさせないような新規なデザイン、或いは免震デバイスを積極的に見せるというものは殆どなかったのは少し寂しい。反面ここへきて幾多の作品を通じ免震建物もかなり広い分野にわたり定着してきたようである。(武田壽一)

楯の制作者 片山利弘 教授の作品製作意図とプロフィール

作品製作の意図 相対する概念、不安と安定を、特殊な技術的表現手段により美的な、均衡空間に創生させることを目的として制作したものです。(片山教授)

片山教授のプロフィール 1928年大阪に生まれる。

1966年、ハーバード大学視覚芸術センターの招きで、アメリカ・ボストンに移住、現在にいたる。

1990年、ハーバード大学教授・視覚芸術センター館長となる。

また、最近の作品には次のようなものがある。

大原美術館ホール石壁と石のレリーフ彫刻を製作。

協力、和泉正敏氏(1991)

三井海上本社ビルの壁3m高に窓象、線映と石の彫刻を和泉正敏氏と共作(1994)

JT本社ビルホール壁画に銅版によるレリーフ(回廊とロビー)製作(1995)

第7回日本建築美術工芸協会賞(AACA賞)(1997)